

川辺高同窓会報

―創立百十周年を契機に―



同窓会長 前 野 政 美

各地区同窓会はもとより川辺の本部同窓会会員の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より同窓会の運営には深い御理解と一方ならぬ御支援・御協力を賜りまして誠にありがとうございます。今後とも、会員の皆様のさらなる御指導と御協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、二〇一〇年・平成二十二年度は、母校川辺高

校にとりまして大きな節目の年でした。会員の皆様方の多大なる御支援・御協力をいただきまして、十一月十三日に創立百十周年記念事業の慰霊祭・記念式典・記念講演会・祝賀会をかくも盛大に挙行できました。記念講演は鹿兒島同窓会の元県教育次長の有馬勉氏（昭和四十三年卒）が「本物を追い求めて―凡事徹底―」という演題で、後輩たちに人間として「本物を追い求めて粘り強く努力を続けて欲しい」と、訴えました。実行委員会を代表しまして深く感謝し、お礼を申し上げます。また、この百年に一度の

発行

川辺高校同窓会本部

発行所

〒897-0221

南九州市川辺町田部田4150

TEL0993-56-1151

FAX0993-56-1152

県立川辺高等学校

不況下にもかかわらず、創立百十周年記念事業資金として高額の御浄財が寄せられました。同窓会会員、地域の皆様、保護者の方々の御協力の賜物だと感謝しております。皆さまから寄せられた御浄財は、「空調設備の設置」をはじめとした教育環境の整備や母校活性化のための活動基金として大事に使わせていただきます。同窓生の皆様の母校や後輩たちを思う気持ちが必要後輩の諸君に伝わるものと期待しています。

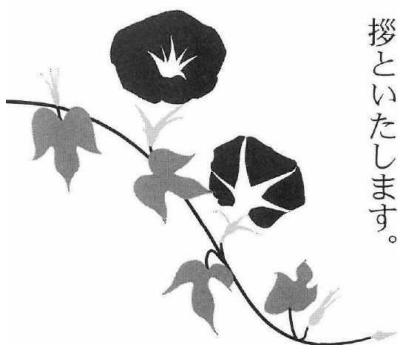
その他、四月末の創立記念講演（福岡同窓会の弁護士 南谷洋至氏（昭和四十九年卒）。五月末の音楽部定期演奏会（東京同窓会より元東京フィルハーモニー交響楽団主席ファゴット奏者の井料和彦氏（昭和月三十年卒）との共演。六月の記念文化祭。九月十一日の記念体育祭。十月二十二日の三十三km遠行、十一月十二日の神戈陵塾。今回の神戈陵塾は、東京同窓会より峯元政公氏（昭和四十六年卒）、関西同窓会より茶蘭義文氏（昭和四十四年卒）、そして福岡同窓会より堀内勉氏（昭和四十二年卒）。

なる活性化・発展ではないかと思えます。創立百十周年を契機にして、さらに母校を発展させるために、学校、PTA、同窓会、地域が一体となって連携を深め、さらに具体的な対策を考え、実行に移していかねばならないと考えております。本部同窓会としても、魅力のある、特徴のある学校にするために、また、我が故郷・南九州市の繁栄のために、知恵を出し合い力を合わせて頑張ろうと思っております。

最後に、同窓生の皆様の御健康と御発展をお祈り申し上げますとともに、母校へ対しまして皆様のさらなる御指導と御協力を宜しくお願い申し上げます。挨拶いたします。

以上のように、昨年度は創立百十周年を記念して、多くの先輩諸氏の方々に、記念講演・記念講話を、また、記念演奏会で共演をしていただきました。いずれも生徒・保護者そして地域の皆様に深い感銘を与えてくださいました。先輩諸氏の皆様の熱い思い・期待が母校の後輩の胸に刻まれたと思います。

この創立百十周年記念事業を終えて同窓生の皆様方の胸に去来したものは、母校・川辺高校のさら



新たな第一歩、絆を深めて



校長 宮園秀昭(昭和46年卒)

から校長として母校で二度も奉職できることを有り難く思うと同時に責任の重さを痛感しています。誠心誠意努めて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

とおるところですが、今回は三年ほど前に空調設備をいち早く設置していただきました。お陰を持ちまして、生徒たちは快適な学習環境の中でそれぞれの進路実現のために日々努力を重ねております。その中でも特に、三年生は放課後学習も始まり本格的な受験勉強をスタートさせています。彼らは、百周年記念事業で寄贈して

としての「絆」も深めていくてくれるものと期待しています。さて、今春の大学等合格実績は国公立大学二十六名、国公立短大五名という結果ではありましたが健闘してくれました。しかし、まだまだ力を出し切っていない部分もあるようです。来春はこの実績を越えられるようさらに努力を重ねて参りたいと思います。

区と合併したことにより地区大会も激戦の状況になってきましたが、男子バスケットボールと女子バレーボールが春季大会で優勝しました。また、県大会においてなぎなた部が個人・演技の部で優勝し九州大会・全国総体への出場を決め、県なぎなた選手権でも個人、演技の部で優勝という成績を収めてくれました。五月末恒例の音楽部定期演奏会では、満員御礼の中、東日本大震災復興を願う生徒たちが一生懸命演奏し、聴衆の皆様から温かい拍手が送られました。そして、定演終了後の募金活動では多くの善意が寄せられました。

昨年本校にとりまして百十周年記念という節目の年でありました。多くの同窓会員と来賓の方々が御臨席された中、記念事業のメインであります創立百十周年記念式典が、生徒主体の進行により盛大に挙行されたことは私の記憶に新しいところです。その他、慰霊祭・祝賀会等の記念事業も滞りなく遂行出来ましたこと

鹿児島同窓会事務局長の寺師慶志様に「絆」という演題で御講演を賜りました。生徒たちは今回の講演をとおして「絆」の大切さについて大いに学び考えさせられたことと思います。今後は同窓会会員

部活動の面では、昨年度は伝統のなぎなた部が九州大会、全国高校総体、国体、全国選抜大会に出場、音楽部がアンサンブルコンテスト部門で金賞等入賞、書道部が県高校書道展で高書研賞受賞、女子テニスや女子バレーボールが県大会ベスト十六などの成績を収めてくれました。今年度も入部率は八十%を超え、多くの生徒が文武両道を目指してがんばっています。高体連の地区割り今年度から指宿地

その他の、生徒たちは地域の伝統行事を含めた様々なボランティア活動へも積極的に参加しています。これらの活動は、地域からも期待されている川辺高校生の取り組みではないかと思っています。ところで、前任校長も生

同窓会員の皆様には、益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃から母校発展のために、物心両面から御支援・御協力を賜わっておりまして誠に深く感謝申し上げますとともに、八月の川辺高校同窓会総会が盛大に開催されますことを心からお祈り申し上げます。

私事で恐縮ですが、今春の定期人事異動で川辺高校勤務を命ぜられ、思いもよらず教職生活の最後を母校で勤務することになりました。平成十八年度から平成十九年度まで教頭として、そして、今年度

これまで同窓会員の皆さまには、記念事業毎に母校への支援をいただい

部活動の面では、昨年度は伝統のなぎなた部が九州大会、全国高校総体、国体、全国選抜大会に出場、音楽部がアンサンブルコンテスト部門で金賞等入賞、書道部が県高校書道展で高書研賞受賞、女子テニスや女子バレーボールが県大会ベスト十六などの成績を収めてくれました。今年度も入部率は八十%を超え、多くの生徒が文武両道を目指してがんばっています。高体連の地区割り今年度から指宿地

その他の、生徒たちは地域の伝統行事を含めた様々なボランティア活動へも積極的に参加しています。これらの活動は、地域からも期待されている川辺高校生の取り組みではないかと思っています。ところで、前任校長も生

徒募集のことで気にしておりましたが、昨年度同様南薩地区の少子化傾向の影響は大きく、今年度入学生は百六十名の定員に対し百二十三名の入学で、四学級維持のきわどいところでした。この影響は本校のみならず地区内の他の学校にも及んでおり、一人でも多くの中学生が本校を目指して入学してくれるよう願わずにはいられません。

今年度は、「生徒個々の

努めて参ります。これからも同窓会の皆様や地域の方々の御支援をいただきながら、川辺地区の伝統校として、地域の中学生が行きたい学校、保護者が行かせたい学校、卒業して本当に良かったと言われる学校、そして地域に信頼され地域になくてはならない学校づくりに、教職員一丸となってさらなる努力を重ねてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

最後になりますが、川辺高校同窓会の益々の発展と、併せて会員皆様の御健勝と御多幸を御祈念申し上げます。



東京同窓会

南谷 亘英
(昭和36年卒)

第三十五回東京同窓会総会は平成二十三年六月二十五日(土)一橋大学ゆかりの如水会館で、前野政美本部同窓会会長、宮園秀昭校長、恩師の黒川久子先生、藏前勇教諭、宇都和久本部同窓会副会長のほか薩南工業高校、吹上高校の各同窓会、川辺、知覧、南

心でがん免疫療法等に関する著作があります。

総会・懇親会では恒例により鱈坂悟朗会長、前野本部同窓会会長、宮園校長先生にご挨拶いただき、百十年記念行事を終えた母校の現況説明と合わせ更なる活性化に向けて同窓会、母校が一体となつて努力を続けようではないかとのお話をいただきました。

司会は四十三年卒担当年度幹事椎原和幸氏、高田和明氏によつて

恒例の特別講演は、横浜市立大学付属病院医療管理室の下之蘭ルリ子氏(昭和五十一年卒)に「生けるを支える」と題して、ご自身の職業を通して、がん患者が立派に病を克服して社会復帰された話や感染症予防など健康管理についてお話ししていただきました。氏は非常に研究熱

きばきと進められ、ご高齢ながら凛とした黒川久子先生と大橋孝子氏(昭和四十三年



卒)によるなぎなた演武の後、札幌から遠来の篠田徹男氏(昭和二十五年卒)の乾杯の音頭により懇談にはいりました。つけあげ、刺身こんにやくなどの料理に舌鼓を打ちながら焼酎で氣勢をあげ、抽選会(景品は焼酎、水溜食品の漬物、鳩サブレ)で宴はたけなわとなりました。今年には会場入り口に(株)盈進社下園典子社長のご好意

により、故当会名誉会長で元農政審会長、東大名誉教授の川野重任氏の著書が多数並べられ、出席者に寄贈されて、出席者一同大喜びで多い人は一人で四、五冊も手にしていました。さつそく目を通しました。が、その偉大さには改めて身の引き締まる思いがします。

同窓会には各界でご活躍の現役の方はもちろん、OBの方もそれぞれが貴

重な経験をお持ちであり、出席してお話を伺う中で大きな収穫が得られると確信します。

校歌斉唱ののち、前橋竹之氏（昭和二十五年卒）ご発声による万歳三唱、太平政弘副会長による来年六月の再会を期しての閉会の挨拶で、あつという間の三時間半の幕を閉じました。

今年は残念ながら、新卒の方の参加がなく新卒紹介が出来ませんでした。東京同窓会は会員数約千二百名と言われていますが、近年母校から関東地区への進学、就職者が一頃の年四、五〇名から数名へと激減して、少子高齢化の様相を呈し寂しい限りです。

なお、東京同窓会では総会のほか年二回の評議員会で母校活性化の議

論を行ったり、年一回の会報誌「神戈陵」の発行による組織強化、卒業生への記念品の贈呈、母校生徒出場の国体応援などを行って

宮崎同窓会

松山 輝雄
(昭和34年卒)

います。最後に母校と同窓会のますますのご発展をお祈り申し上げて同窓会の報告といたします。

の創立百十周年記念事業が平成二十二年十一月十三日の記念式典をもって成功裡に終了したこと、生徒絶対数減少の現在の環境、そのなかでの生徒たちの活躍、先生方の奮闘振りについての力強いお話を伺うことができました。

平成二十二年度の川辺高校同窓会・宮崎県支部総会・懇親会は、平成二十三年一月二十三日（日）、宮崎市のエアラインホテルで開催されました。ご来賓として、南九州市から、同窓会本部の前野政美会長、学校から神田芳文校長、永野守雄事務局長、水溜孝志教諭にご出席いただき、母校の現況や後輩の活躍振りを伺い、故郷を懐かしみ、年に一度の出会いを楽しみ暖かい会となり、一同心から喜び、感謝しております。

恒例の写真撮影のあと、芝原正文会長の歓迎の挨拶があり、本部・学校からのご来賓のお話、DVDで

「私たちの今」の礎である母校の逞しさに触れるとともに恩返し気持を更に感じました。

議事のあと、それぞれの参加者の皆さんの、ユーモアあふれる楽しい近況紹介を交えて、本場四川

の中華料理や紹興酒に盛り上がる懇談のなか、最後は田代和民氏（八十八歳）の指揮による「高校三年生」をはじめとする青春賛歌メドレーのあと、新・旧校歌の大合唱で名残りを惜しみながらの散会となりました。

「繋がりに 繋がれること 感謝する」

ありがとうございます



今年に残念ながら、新卒の方の参加がなく新卒紹介が出来ませんでした。東京同窓会は会員数約千二百名と言われていますが、近年母校から関東地区への進学、就職者が一頃の年四、五〇名から数名へと激減して、少子高齢化の様相を呈し寂しい限りです。

恒例の写真撮影のあと、芝原正文会長の歓迎の挨拶があり、本部・学校からのご来賓のお話、DVDで

「私たちの今」の礎である母校の逞しさに触れるとともに恩返し気持を更に感じました。

議事のあと、それぞれの参加者の皆さんの、ユーモアあふれる楽しい近況紹介を交えて、本場四川



東海同窓会

佐多 和夫
(昭和39年卒)

平成二十二年十月三日 ました。

(日)、隔年毎に開催するこ
とになって三回目の第二
十回東海同窓会を、恒例の
熱田神宮近くの庭園付豊
会場の賀城園にて開催し
ました。

当日は、同窓会本部の前
野政美会長、母校からは神
田芳文校長先生、そして同
窓会事務局の長野守雄先
生のご臨席を賜りました。



東海からは十
一名と、前回
と同様、元東
海同窓会の副
幹事長をなさ
れていた宮原
さんと、宮原
さんが豊田に
いた時の友人
の迫さん、内
藤さんが今回
も特別に参加
され、総数で
十七名の開催
となりました。

飯野東海同
窓会会長から
は、二十回目
の同窓会とな
った節目に対

し、先輩の方々のご尽力への感謝と神戈陵の思い出話をされました。

前野会長からは、百十周年記念事業とした全館冷暖房設備設置への募金協力御礼と、東海同窓会がつまでも存続し母校との絆が途切れないように、ということを話されました。また神田校長先生からは、学校の状況として進学とスポーツ状況の活躍などを話されました。

三町が南九州市となったことで、一段と統廃合の現実の話があり、大変な時代になったと思うことでした。

長野先生からは、募金状況や、百十周年記念式典への参加依頼と会報掲載や新聞への宣伝広告への募集などについて協力依頼など話されました。また、南九州市の広報も配布され、故郷のことが懐かしく思われました。今回も参加者の名前入りのひらぎの葉を使ったしおりを

制作され、出席者に配布し、素敵なプレゼントとなりました。

二年ぶりの東海同窓会も高齢化が進み一段と出席者が減少してきているのが現状です。そんな中、百十周年記念に造った川辺高等学校オリジナルの神戈陵名のついた焼酎の差し入れを飲み交わし、同会場でのカラオケには、神田校長先生や長野先生も歌われ和やかな会に盛り

上がり、最後は旧と新の校歌を合唱をして終わりました。

近年参加者が少なくなっている東海同窓会ですが、存続には東海在住者の参加が何としても不可欠です。ぜひ同級生を誘ってご参加してみてください。

川辺同窓会

上之 進一
(昭和63年卒)

毎年夏恒例の川辺高校同窓会が、平成二十二年八月七日(土)、南九州市川辺町の「ひろ瀬」で開催されました。男性は昭和六

十三年卒業生、女性は平成九年卒業生が担当幹事で、それぞれ役割を分担し準備いたしました。

当日は、県内外からの参加者をお迎えすると共に、学校関係者の御出席も頂

き、創立百十周年を迎えるにふさわしい盛大な同窓会を開催することができました。

川辺高校吹奏楽部の軽快な演奏によるオープニングセレモニーで始まった総会では、前野政美同窓会会長、神田芳文校長のあいさつの後、亀甲俊博(昭和四十七年卒)議長のもと、平成二十一年度の活動



報告・決算報告、平成二十二年度の事業計画案・予算案及び創立百十周年事業実行委員会報告・事業予算案が審議されすべて承認をいただきました。

引き続き行われた懇親会は、椎原耕鹿児島同窓会会長の乾杯と川辺磨崖仏太鼓保存会の力強い太鼓の演奏で始まり、久しぶりに再会した同級生や先輩方との思い出話に花が咲き、また焼酎「神戈陵」を

賭けたジャンケン大会などで大変盛り上がり、和気あいあいとした宴となりました。会の最後は校歌を全員で斉唱し、南谷亘英東京同窓会監事の万歳三唱の後、来年度幹事の挨拶で閉幕しました。

今回の同窓会が盛会のうちを終了できましたのも、同窓会事務局の先生方を始め関係各位の御尽力の賜物と改めて感謝申し上げます。

最後に
なりまし
たが、母
校川辺高
校が創立
百十周年
を迎え
益々発展
すること
を御祈念
いたしま
して報告
とさせて
頂きます。

南九州市職員神戈陵会

事務局長
金田 憲明
(昭和53年卒)

第二十一回平成二十三年度総会を六月六日ビジネスホテルオカノにおいて開催しました。開会に当たって、徳丸俊治会長が二十二年度の活動を振り返った反省点などを述べました。「南九州市も合併し、四年目を迎えたが、市役所の神戈陵会は統一されていない。迫り来る高校再編の波に立ち向かっていくには、学校現場はもちろんのこと、同窓会も力と知恵を出し合って立ち向かっていかなければならない。また、二十二年度は川辺高等学校創立百十周年にあたり、今後さらなる川辺高等学校の飛躍について同窓会員は期待しているし、協力もしていきたい。」という旨の話がありました。

議事については、活動経過、決算などについての報告と二十三年度活動計画と予算が審議され、すべて原案のとおり可決されました。活動計画においては、当面の課題である南九州市役所神戈陵会の統一に向けて地道な努力が必要なが協議されたほか、組織の名称変更についても協議がされました。

これまで「南九州市職員川辺町神戈陵会」であったものを「南九州市職員神戈陵会」と改称し、組織への加入者の増加を目指していくこととなりました。また、今年度の総会には、平成二十三年四月採用の新入職員にも声をかけ、三人の方に出席してもらいました。役員改選については、会長 楠元章一、副会長 南田祥作、内匠和子、委員 楠原万介、才田いく子、東忠洋、松谷初美、原口丈二、下永田奈七子、書

記会計(事務局) 内原広行が選出されました。

引き続き開催された懇親会では、前野政美同窓会会長、宮園秀昭校長に来賓のあいさつをいただき、楽しい語らいがスタートしました。懇親会には、顕娃出身の新原さんにも駆け付けていただき、顕娃出身の職員は神戈陵会加入について積極的であり、事務局からの声かけをぜひお願いしたいとの言葉をいただきました。知覧出身者への声かけは、関係者との調整を図りながら、着実に、しかし積極的に行っていくかなければならないことなどが話されました。

同じ会員同士でも職場が離れると、なかなか話す機会がなくなり、久しぶりの会話に話が弾んでいました。職場が少し離れるだけで、こういう状況であるだけに、何年かぶりにある同級生、あるいは恩師との再会はどれ程素晴らしいものかは想像もつきませ

ん。

参加者は、時間の経つのも忘れての懇談となり、大盛会となりました。

八月になると川辺高等学校同窓会も開催されます。多くの会員の参加のもと川辺高等学校のこれからについて大いに語つ

てもらいと思います。

最後に、同窓会に参加すると学ぶべきことが多いと思います。会員の皆様方においては、機会を作つて同窓会など積極的に参加していただきたいとお願い申し上げます。



関西同窓会

茶園 義文
(昭和44年卒)

例年十一月に開催しております関西同窓会が創立百十周年記念式典(平成二十二年十一月十三日)と開催月が重なったため、

平成二十二年度の関西同窓会は開催致しませんでした。記念式典には関西同窓会からも岩屋口会長をは

じめ、有志の方々が参加され、当日の亡師亡友慰霊祭、記念式典、記念祝賀会に出席されました。参加いただいた方々は、旧制中学校、高等女学校、川辺高等学校へと続く百十年の歴史と伝統、そして綿々とつながる同窓生の深い絆を改めて感じられたことと思います。

平成二十二年度の関西同窓会の活動としては、百十周年記念事業に向けた募金活動のご協力の呼びかけが主要なものでした。おかげ様で皆さん方のご協力により、百二十六件、総額九十九万九千円の募金額となり、何とか責任を果たせたことに、関西同窓会の会員の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

今後川辺高等学校の同窓生相互の親睦ならびに会員が一致協力して母校の発展と向上を援助できるように、関西同窓会としても取り組んで行きた

いと思っております。

最後になりましたが、今後の川辺高等学校の益々

のご発展を心よりお祈り申し上げます。

枕崎・坊津同窓会 地区PTA報告

PTA副会長
酒匂 明彦

平成二十二年九月四日、

昨年と同じ日に地区PTAと合同で枕崎・坊津地区同窓会を開催致しました。高校側からも昨年度同様、校長先生をはじめとし先生方にも参加して頂きました。開会後校長先生より「子どものやる気を起こさせる」という内容でお話を頂きました。その後のアンケートでは貴重な話でためになったとの回答が多くありました。その後の親睦会は大変な盛り上がり、楽しそうな笑顔で閉じることが出来ました。

また、今年二月十三日には地区PTAの予算で川辺高校バス停留所にベンチを設置致しました。バ

スを待っている子供達が歩道に座り込んだり、車道に足を投げ出したまま路側帯に座り込んで危険だとの指摘を受け、座る場所のない子供達のことを思い、設計、製作、設置まで行いました。費用は三万円程度でしたが、思った以上に頑丈でおしゃれな物が出来ました。時々、ベンチに腰掛けるお年寄りを見て「設置して良かった」と思います。しかし、今度は雨対策を講じる必要性を感じてます。土砂降りの中、バスを待つ生徒。ベンチのように安くないかもしれませんが、子供達の為にも、地域のお年寄りの為にも、一刻も早く設置出来ればと考えています。

鹿児島同窓会

事務局長
寺師 慶志
(昭和41年卒)

鹿児島同窓会の平成二十三年度「神戈陵のつどい」(総会・懇親会)は七月三十日(土)、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで開き、七十七人が出席しました。来賓として川辺高校同窓会長の前野政美さん(昭和三十年卒)、川辺高校の宮園秀昭校長、政元智教頭、入村幸宏事務長と教諭三人の計七人がかけつけました。

総会は冒頭、亡師亡友へ黙とう。

当学年の四十二年卒、有馬勉さんが開会あいさつとして「ことし三月、東日本一帯に大震災が起これ日本中、心を痛めてきた。そうした矢先、先般、なしこジャパンがワールドカップ優勝という偉業を成し遂げて前に向かって進む元気をもらった。こうした一連の出来事を通して、私たちは日本人、家族、同僚、仲間、同窓生としての『絆』の有り難さを噛みしめた。本日は川辺高校の同窓の絆をお互い確かめ合いながら、あの青春の日々を神戈陵ですごした当時に立ち返って豊かなひと時の今宵を過ごしていただけたらありがたい。年々時代は

変わってもこの絆の大切さは変わることはない」と述べました。

鹿児島同窓会の椎原耕会長(二十六年卒)が「いろいろ事情はあるかもしれないが、年一回の総会なのでもう少し集まっていきたい。今回は四十二年卒の皆さんが当番幹事として準備や人集めに尽力していただいた。ところが、来年当番の四十四年卒の学年幹事がいない。どうしたものか今、悩んでいる。そこで皆さんにお願いがある。絆をもとに自分よりも十級、二十級下の同窓生に声かけしていただきたい」と協力を呼びかけた。

来賓祝辞として、前野政美会長は「昨年の百十周年記念事業では、特に募金活動に協力いただいた。おかげでなんとか同窓会長の役目を達成できた。百二十周年への第一歩を踏み出した。ただ一点、懸念されるのは生徒児童数の減少をどう乗り切っていくかだ」と危機感を見せた。また、前野会長は今期で会長職を辞任することを明らかにし、「永い間支えていただきありがとうございます。ありがとうございました」と結びました。

宮園秀昭校長(四十六年卒)は五年前母校教頭から出水高校長に転出、三年ぶり母校に校長として帰ってきた。「この5年間で県全体で中学校卒業の生徒数が二千五百人減った。川辺高校も百五十人減った。しかし、生徒数が少ない中で進学、部活に頑張っており、ことしは二十六人が国公立大に合格。合格率は昨年とほぼ変わらない。こども、そして教職員の頑張りのたまものだ」など、母校の現況を説明した。

総会承認事項の会務・決算報告が事務局からあり、監事の黒松武蔵さん(三十八年卒)が「適正に処理されている」旨、監査報告をした。

総会に引き続いて懇親会。冒頭、県議会議員の柳誠子さん(二期目、五十四年卒)の紹介があり、「地域の元気の源である高校を無くしたら地域はますます衰退していく。先輩方の知恵をお借りしながら高校存続のためにがんばりたい」とあいさつした。

大倉野修さん(四十三年卒)が乾杯の発声。東恒夫さん(四十三年卒)指揮の川辺フィルハーモニー管弦楽団四重奏の落ち着いた雰囲気の中、会食が盛り上がった。同楽団は川辺町を本拠とするアマチュアオーケストラ。

余興は柚木清紀さん(三十五年卒)の踊りに引き続き、カラオケ合戦。四重奏の伴奏で旧制中学校と川辺高校の校歌を高らかに合唱した。上野隆志さん(四十三年卒)の音頭で万歳三唱して締めた。なお、総会・懇親会ともに司会・進行役を蔵屋知忠さんが務めた。受付、会場設営など四十二年卒のみなさん、ご苦労さまでした。



知覧地区神戈陵会

十六年ぶりに開催される (昭和37年卒) 宮原 楊子

東海同窓会員時代に創立百周年記念を迎えました。それから早や十年。本部会員となり、百周年準備委員となりました。最初の会合で、知覧地区募金率三%にびっくり!! 川辺地区はすでに六十%台。

とり急ぎ、「声かけをし

よう」を合言葉に、知覧地区神戈陵会の開催を決め、知覧地区新聞にチラシを、南日本新聞に広告を出し、募金活動の波を盛り上げていきました。

おかげさまで、最終集計では四十%台となり、十六年ぶりに「知覧神戈陵会」も花開きました。



「知覧地区神戈陵会」の様子については、百周年から百十周年を支え続けた職員であり同窓生でもいらっしやった長野守雄先生がまとめて下さった報告をもとに、ここに紹介することで替えさせていただきます。

平成二十二年十月八日 (金) 川辺高校知覧神戈陵会が「ふるさとプラザさくら館」で開催されました。

司会が坂元恒太さんで、まず旧制川辺中学校校歌を全員で斉唱しました。松久保毅地区会長の話の中で、十六年ぶりに当会が復活したと聞き皆驚いたようでした。前野同窓会会長の代理で出席した宇都和久同窓会副会長は、募金の現状を述べたあと、「川辺高校はよかど。川辺へ行けよ。」の声掛けをして欲しいとも述べました。

神田芳文校長は、募金へのお礼と学校の現状、そして、地元の中学生在が来てくれるような学校づくりをしていきたいと述べました。

蔵元泰正知覧商工会長の乾杯の音頭で懇親会に入りました。あちこちで膝を突き合わせ、車座になり、出席者六十名近くの人たちが、母校での青春時代の話題で花を咲かせまし

た。宴もたけなわの中、全員起立して校歌を斉唱しました。

市坪政昭地区副会長の閉会の挨拶と万歳三唱で楽しい宴はお開きになりました。それにもかかわらず、座り直して夜遅くまで話し込んでいた人たちもいました。

以上長野守雄先生がまとめて下さったものをもとに報告いたします。

長野先生、ほんとうにお疲れ様でした。御指導、御協力ありがとうございました。先生、どうぞお元気で、新天地でのご活躍をお祈り申し上げます。

南さつま地区神戈陵会

事務局長 木場 正英 (昭和48年卒)

南さつま神戈陵会においては、平成二十三年度総会を七月九日(土)、毎年恒例の会場である昭和三十九年度卒業生の今村勝徳氏の経営するレストランブルドッグで開催しました。

当日は、前野政美同窓会会長・宮園秀昭校長先生をはじめ政元智教頭先生、入村幸宏事務長先生、上之園修PTA会長、宇都和久同窓会副会長、同窓会事務局長の蔵前勇先生、同窓会係の水溜孝志先生、栗ヶ窪智

恵理先生の九名の皆さまが同窓会ならびに学校側を代表して出席いただきました。

また、福岡県より福岡同窓会会長の南谷知成氏、東京より双子の南谷亘英氏と辰元克充もわざわざ本会のために帰郷され、参加いただきました。さらに、今回も昭和十七年卒業で米寿を迎えられました西秀美・春成文夫・二宮邦夫ご三名の大先輩が出席され、参加者に感動と活力を与えられました。



会員として昭和十七年から平成元年までの卒業生の皆さまが出席されました。なかでも、会員が期待しております女性会員は、昭和三十八年卒業生の汐満美奈子・東久保幸子様二名が出席され、花を添えていただきました。

はじめに、亡師亡友への黙祷に始まり、本会ならではの冒頭での校歌斉唱の

あと、上東書三南さつま地区神戈陵会会長より、来賓並びに出席者への御礼と当会へのますますの支援と盛会を祈念するあいさつがありました。

続いて、前野同窓会会長より同窓会活動状況をお話いただいたあと、宮園校長先生より、現在の学校の様子など詳しく説明をしていただきました。

その後、懇親会に入り、進行役の突然の指名によって、それぞれ一言ずつお話しいただき、出来るだけ多くの皆様に楽しんでいただくよう勧められました。

南さつま地区は、旧加世田市を中心とした地区ですが、参加者の増員に苦慮しております。

これからは、組織の強化を図る

ために、役員会を可能な限り開催し、老若男女の会員の掘り起こしを行ってまいりたいと考えます。

さて、懇親会は時間が経

福岡同窓会

南谷 洋至
(昭和49年卒)

今年もにぎわう

平成二十二年十月十六日(土)午後二時から、第二十二回福岡同窓会がいつもの福岡国際ホール「志賀の間」で開催されました。

司会は、今年もまたおなじみの本田正郎(昭和三十一年卒)氏が務めました。

堀内勉(昭和四十二年卒)副会長の開会宣言の後、全員で亡師亡友へ黙祷を捧げました。次いで、南谷知成(昭和三十六年卒)前会長が童謡唱歌「ふるさと」の歌を例に引きながら、同窓会出席への喜びを述べました。

本部同窓会からは、高田政雄(昭和四十八年卒)副

つにつれ同窓会員の絆が深まり、ますます盛会となり、惜しみながらの閉会となりました。

会長が募金の御礼と十一月十三日(土)の創立記念行事への参加を呼び掛け、

神田芳文学校長は母校の現状と福岡同窓会からの神戈陵塾への人材派遣への御礼を述べました。来賓として出席された恩師の長岡驍先生(担当化学、在職昭和三十六年、昭和四十五年)が大阪万博へ

の修学旅行に生徒を引率した苦労話をされました。

全員で第一回目の旧校歌・新校歌を斉唱し、上木原純一郎(昭和四十三年卒)氏のあいさつのあと、懇談に入りました。恒例となった近況報告では、平成二十二年卒の新入会員から順に全員の話がなされました。今年も出席者の最大派閥は南谷洋至(昭



和四十九年卒) 事務局長の同期生で、「第六応援歌」を先頭に立って歌い、会を盛り上げました。

二回目の旧校歌・新校歌を全員で斉唱し、最後の締めは上野修一(昭和四十九年卒)副会長が行い、来年の再会を期して一次会はお開きとなりました。

二次会は、これまた恒例のもつ鍋店(楽天地)の五階で、二次会から参加した人も含めて四十人程度が集まって、十八時から二十時頃まで行われました。

ここでは、昭和五十五年卒が会の運営に携わり、いよいよ福岡同窓会も四十九年卒から五十五年卒体制へ移行かという話題も出ましたが、最後はやはり前田光二(昭和四十九年卒)氏が締めくくりました。

その後の三次会は、それぞれのグループに分かれて博多の夜を満喫したというものでした。本当に元気な福岡同窓会でした。

(追記) 今年の福岡同窓

会出席者はラッキーでした。川辺の焼酎「寿」や「八幡」

は会場で十分飲めたとし、南谷洋至事務局長が、創立百十周年記念で作った焼酎

「神戈陵」をお土産として全員に一本ずつサービスで提供してくれました。全員喜んで帰宅しました。

※福岡同窓会の様子については、長野守雄先生(昭和四十二年卒)が川辺高校同窓会ホームページに掲載したものを改めて紹介しました。

川辺高校 ホームページより

2011/04/07

第66回入学式が行われました。正門では、満開の桜が新入生123名を出迎えました。宮園校長は式辞で新入生に対して次の四点を期待すると述べられました。第一に「学びの姿勢を持ち続けよ」、第二に「己を律し、他人を敬い、人の心の痛みのわかる、人のために尽くす人間になって欲しい」、第三に「己を磨き、品格のある人間になれ」、最後に「生涯の友としての朋友をつくってほしい」

また、新入生代表 松枝弘実さんが、「高校生活に希望と不安がありますが、歴史と伝統のある川辺高校の名に恥じないように、責任と自覚を持って行動していきたい」と決意を述べました。

新入生みなさん、入学おめでとうございます。川辺高校での3年間の生活を充実させ、大きく成長されることを期待しています。



2011/04/28

一日遠足が行われました。1年生はフラワパークかごしま、2年生はかごしま健康の森公園、3年生は平川動物公園に行きました。学校を離れて新緑の自然に接し、ゆったりと過ごせたようです。また友達との親睦を深め、楽しい思い出もたくさんできたようです。

一日遠足こぼれ話

一日遠足の翌日、ある女性からお礼の電話がありました。「健康の森公園で子どもが迷子になりましたが、川辺高校の男子生徒数名がいくつかの団体を巡り問い合わせ、送り届けてくれました。余りにもうれしかったので電話をさせていただきました」とのことでした。



2011/07/01

本日で期末考査が終了しました。午後は、1・2年生全員と3年生の希望者でEM団子作りを行いました。EM菌は環境浄化等に有用な多くの微生物を総称したものです。今日、EM菌入りの団子を約1万1000個作りましたが、この後数日乾燥させた後、広瀬川に投げ入れ浄化に役立てます。



2011/07/01

本日、期末考査終了後、3年生の希望者21名がかわなべ寿光苑でボランティア活動を行いました。入所者の方々と七夕飾りを作ったり、デイサービスで来られた方々とビンゴゲームをして、高齢者の方々と楽しく交流しました。初めて参加した生徒もいましたが、積極的に話しかけ、良い活動ができたようです。



2011/07/20

メダカ・ホタル水路放流式が行われました。

南薩縦貫道川辺道路の整備のため、約6年半前「川辺道路メダカ・ホタル救助隊」が発足しました。川辺高校では生徒会を中心に、ボランティアの生徒も含めて多くの生徒が長期にわたってメダカを飼育・繁殖してきました。今回メダカ・ホタル水路が完成したため、元の川へ放流することになりました。

神殿校区公民館で、川辺道路の歩み、メダカ・ホタル救出作戦の紹介、環境についての講話などをお聞きした後、メダカ・ホタル水路へ移動し、神殿小学校の児童とともに生徒会執行部の生徒が約200匹（地元の方が飼育されていたメダカも含めて）のメダカを放流しました。放流後、神殿校区公民館に戻り、鹿児島県南薩地域振興局から感謝状、謝礼が贈呈されました。

川辺高校でメダカの飼育・繁殖に携わってきた生徒会、卒業生そして職員の皆さんありがとうございました。



文化祭を終えて

生徒会長 清水 佑 大

のになったからだと思います。

昨年は百十周年記念の文化祭ということで盛大に行われましたが、今年には東日本大震災を受け、「絆」を感じながら新たな一歩を踏み出すという気持ちを胸に、文化祭の準備をし、当日を迎えました。三年生が中心となって昨年と同じか、それ以上に盛り上がったのではないかと思います。

四月にテーマを決定することから始めた文化祭も、あつという間に終わったという感覚があります。

さて、展示部門をした一年生は、中学校時代と異なる魅力を感じた文化祭だったと思います。担任の先生の協力を得ながら、どの学級もレベルの高い展示物が並んでいました。壊してしまうのが惜しいほどの川辺高校の模型を制作した学級がありました。また、美術・書道・家庭・図書委員会の作品も目を引きました。展示会場の武道館が、いつもとは全く違った趣になり、芸術の



香りが漂っていました。二年生のバザーでは、装

飾を工夫し、多くのお客さんの目を楽しませていました。当日の接客も熱心に取組んでいました。その理由は、バザーの益金は東日本大震災の義援金になるからです。美術部も自作のポスターカードで



初のバザー参加をしていました。自分ができることを何かしたいという強い気持ちを感しました。また、PTAの皆さんが、おいしいうどんのバザーを行い、盛り上げてくださいました。

三年生は舞台で、印象に残るパフォー

マンスをしていました。画像と実写を組み合わせた新感覚の劇やユーモア溢れる劇、心温まる英語劇、踊り込んだダンスなど、短い練習期間でよく作り上げてきたなと思いました。本番に強いところも見せられたと思います。

最後はゆずの「栄光の架橋」を

全員合唱し、心一つにして文化祭を終えることができました。「絆と共に」をテーマに掲げたように、皆が大きな絆で結ばれることができたと思います。そして、この絆を守り抜いていこうと思います。文化祭に携わった多くの人に感謝しながら、報告を終わりたいと思います。



事務局だより

中尾 龍二

(昭52年卒)

平成二十二年度は、「学校創立百十周年」と冠した文化祭や体育祭など、各種の学校行事が開催されました。十一月十三日(土)には、百十周年の締めくくりの行事として、慰霊祭を皮切りに記念式典・記念講演会・記念祝賀会が举行されました。

記念式典においては、神田芳文校長先生、同窓会会長でもある前野政美記念事業実行委員長の式辞に始まり、鹿児島県知事・鹿児島県議会・鹿児島県教育



【創立記念講演会】

委員会・宇都和久PTA会長から祝辞を賜りました。記念講演会では、本校昭和四十三年卒である有馬勉先生が、「本物を追い求めて―凡事徹底―」という演題で講演されました。昼からは、シャトルバスを運行し、会場を「ひろせ」に移しての記念祝賀会が開催されました。大いに盛り上がった祝賀会は、校歌斉唱、卒業年度ごとの記念撮影で締めとなりました。ただし、「ひろせ」二階において、祝賀会の二次会が

行われたこともここに追記しておきます。

新たなスタート

鹿屋高校に転勤された神田校長先生からバトンを引き継いだのは、本校昭和四十六年卒の宮園秀昭校長先生です。そして、七名の新進気鋭の先生方を定期人事異動でお迎えしました。四月七日(木)には、新入生百二十三人を迎えて、全校生徒四百三人で平成二十三年度がスタートしました。

創立記念講演会

本校OBを講師として開催される創立記念講演会が、四月二十六日(火)に開かれました。今年度は、昭和四十一年卒の寺師慶志氏(元南日本新聞編集本部長)が、「絆―きずな―」という演題で講演されました。氏は、東日本大震災において世界に絶賛された日本人の態度を例に挙げながら、また、ご自身も取材した昭和六十三年から行われている小・

中・高校生による「無人島アドベンチャーの旅」の体験から、「絆」の大切さについて、分かりやすくお話しされました。そして、最後に、昨年度の百十周年を記念して行われた新聞広告を取り上げ、新聞広告を

成功に導いた本校同窓生の「絆」の強さを紹介して、講演会は終了しました。

神戈陵奨学生決定

七月一日(金)、本校小会議室で、「神戈陵教育振興会奨学生」三学年選考会が開かれ、高い目標

達成のために努力している志礼田賢人君と内匠詩織さんが選考されました。そして、七月十九日(火)には、校長室で贈呈式が行われ、前野同窓会長から奨学金が贈呈されました。



【奨学金の贈呈式】

川 辺 高 等 学 校 同 窓 会
平成22年度 収支決算書

(H. 22. 8. 1~H. 23. 7. 31)

収入の部

費 目	当初予算額	予 算 現 額	収入済額	増 減	備 考
入 会 金	160,000	160,000	123,000	△ 37,000	1,000 × 123 新入生
会 費	288,000	288,000	288,000	0	2,000 × 144 卒業生
総 会 費	400,000	400,000	355,500	△ 44,500	参加費
繰 越 金	123,876	123,876	123,876	0	
繰 入 金	520,000	520,000	4,510,000	3,990,000	定期取り崩し, 110周年事業より
雑 収 入	8,124	8,124	89,081	80,957	利息, 寄付
合 計	1,500,000	1,500,000	5,489,457	3,989,457	

支出の部

費 目	当初予算額	流 用 額	予算現額	支出済額	不 用 額	備 考
総 会 費	400,000	0	400,000	355,500	44,500	同窓会総会費
需 用 費	120,000	0	120,000	115,500	4,500	会報印刷代
通 信 費	20,000	0	20,000	9,400	10,600	切手, ハガキ代
慶 弔 費	100,000	0	100,000	53,623	46,377	弔電, 記念品代
旅 費	450,000	△ 152,000	298,000	210,350	87,650	福岡, 東京, 名古屋(他の地区は110周年より負担)
負 担 金	250,000	0	250,000	230,000	20,000	各地区同窓会の負担金
高校振興費	80,000	152,000	232,000	231,344	656	4校PTA連絡会補助, 創立記念講演会懇親会補助 宿泊費補助, 文化祭運営費補助
雑 費	70,000	0	70,000	49,905	20,095	各地区同窓会へ土産代, 送料
予 備 費	10,000	0	10,000	0	10,000	
合 計	1,500,000	0	1,500,000	1,255,622	244,378	

収入済額 - 支出済額

5,489,457 - 1,255,622 = 4,233,835 円 23年度へ繰越

特別基金(鹿児島銀行) 3,088,611 円 (H23. 7. 31)

収入の部

平成23年度 予 算 書 (案)

(H. 23. 8. 1~H. 24. 7. 31)

費 目	本年度当初予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	160,000	160,000	0	1,000 × 160 新入生
会 費	318,000	288,000	30,000	2,000 × 159 卒業生
総 会 収 入	400,000	400,000	0	同窓会総会
繰 越 金	4,233,835	123,876	4,109,959	
繰 入 金	0	520,000	△ 520,000	
雑 収 入	8,165	8,124	41	利息他
合 計	5,120,000	1,500,000	3,620,000	

支出の部

費 目	本年度当初予算額	前年度予算額	増 減	備 考
総 会 費	400,000	400,000	0	同窓会総会
需 用 費	120,000	120,000	0	同窓会会報, その他
通 信 費	20,000	20,000	0	ハガキ, 切手代
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職員記念品代, 他
旅 費	600,000	450,000	150,000	東京・関西・名古屋・福岡・宮崎他
負 担 金	250,000	250,000	0	各地区同窓会へ
高 校 振 興 費	360,000	80,000	280,000	創立記念講演会懇親会補助, 4校PTA連絡会補助 宿泊費補助, 文化祭運営費
雑 費	90,000	70,000	20,000	各地への土産代他
繰 出 金	3,100,000	0	3,100,000	定期へ
予 備 費	80,000	10,000	70,000	
合 計	5,120,000	1,500,000	3,620,000	

結成予定 鹿屋地区同窓会・川内地区同窓会・指宿地区同窓会・加治木地区同窓会